

アセアック ASEACCU 国際会議

英語文化学科 O.Y. さん、文化総合学科 C.M. さん

場所 ソガン大学 韓国(2019年会場校)

期間 2019年8月、約1週間(派遣時期:2年次)

アセアック ASEACCUは東南・東アジアカトリック大学連盟の略称で、日本を含むアジア約90のカトリック大学で構成されます。毎年夏に加盟大学を会場に行われる学生プログラムでは、各国の若者が英語で議論を深め交流します。今回、藤女子大学から学生2名が参加しました。

テーマは「東アジアの和解と現状」

会議ではまず朝鮮半島の歴史、ジェンダー、グローバル化、民主主義についての講義があり、続いてグループディスカッションが始まりました。経済事情や歴史が異なるアジアで、共通の問題として挙げたのが移民に関することでした。アジアには移民の受け入れ国もあれば、送り出し国もあります。テーマが「自国の移民問題」に決まり、各国の現状と意見を発表することになりました。

しかし、ディスカッションが始まって私たちが日本の学生は意見を言うことができませんでした。それは移民が自分達とは関係のない問題だと思っていたからです。しかし、オーストラリアの学生は「自分の周囲で起きていることではないが」と前置きをして話を始めました。これ聞いて私は、身近で起きていること以外の問題にこれまで無関心だったことを反省しました。

最近の選挙でも日本全体の投票率が50%を切り、さらに10代の有権者の投票率は30%にも届きませんでした。この背景には、身近で起きていること以外の問題に対し、若者の関心が薄いことがあるかと思えます。私たちにできることは、友達や家族に、苦しんでいる外国人労働者が日本にもいることを伝え、関心を持っていなかった人にも現状を知ってもらい、ともに解決策を探ることです。日韓関係、少子高齢化や児童虐待など、話し合うことは他にもたくさんあります。会議を契機に、広く世界に目を向け皆で社会問題を考えていくために、周りにも働きかけたいと思うようになりました。(O.Y.)

学生交流を通じて

日韓関係があまり良好とは言えない中で韓国の渡航でしたが、非常に貴重な体験になりました。出発前から日本製品の不買運動といったデモや集会への注意喚起がなされており、また今回のテーマに関しても、日本としては非常に厳しい立場に立たされていることは事前学習で学んでいたため、緊張感の強い渡航となりました。

しかし、実際の韓国は想像やネット上で見ていたものとは異なり、人々は皆、日本人に対して優しくしてくれました。韓国人の友達もすぐにできて、韓国語で話すことも多くあったのですが、一番印象的だったのは「国と国がうまく行っていなくても国民同士には関係がない。私は日本が好き」と言うものです。

メディアでは連日、韓国が日本を批判している様子が取り上げられていましたが、彼女は、韓国人は日本という国自体を否定しているのではないと、国民の意識とのズレを指摘していました。このようなことが日本でも起こる可能性は十分にあり、メディアの情報を全て鵜呑みにすることは国際関係を悪化させるリスクが高いと考えます。ソーシャルメディアが普及し、誰もが容易に情報発信をできるようになりましたが、情報の正確さや質が低下する可能性が高まり、誤った偏見や差別を生みかねません。一方で世界中の人々とコミュニケーションを取ることが容易になったため、直接自分で意見を聞くことも可能になりました。アジア諸国の参加者と今回話し合ったことを生かして、国籍を超えて長く付き合い、互いの国への理解を深めていきたいです。(C.M.)

仲良くなったグループの仲間と



韓国の学生と韓国語で話すと、冗談を言いあったりして、とても仲良くなったので、色々な言語を学ぶことの大切さも分かりました



会議や話し合いはすべて英語



100名を超えるアジアの学生が参加



ASEACCU 国際会議

1日目～2日目	ソウル着 自己紹介や交流会、ナンタショー見学
3日目	開会式、講義と話し合い
4日目	フィールドワーク 北朝鮮との停戦を象徴する境界線 DMZと LGエレクトロニクス工場見学。
5日目	講演と最終発表、修了パーティー チームごとパワーポイントにまとめて英語で発表。パーティーでは、チーム対抗 K-POP ダンスバトルを披露。
6日目	帰国